

会長就任挨拶

2018年5月24日
日本製薬団体連合会
会長 手代木 功

この度、日本製薬団体連合会の会長を拝命いたしました手代木功です。日薬連会長就任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、ご退任されました多田前会長に対しまして、精力的かつ真摯に日薬連会長職を務められましたことに心から敬意を表したいと思っております。評議員を代表して深く感謝申し上げます。引き続き、大所高所からのご指導を賜りたく、お願い申し上げます。

さて、本日より日薬連の会長を仰せつかることになりました。ここ数年、業界を取り巻く環境は非常に厳しいものがありますが、医薬品産業全体を俯瞰し、業界を代表して政府や行政機関、関係団体に対し意見、要望を申し上げ、その実現を図っていくことが私に課せられた責務と認識しております。具体的には薬価、税制、薬機法等の各種法制度やガイドライン等の課題への政策提言であると考えています。

日薬連は15の業態別団体と16の地域別団体から構成されており、各団体の皆様方と緊密に連携を図りながら、課題を解決していきたいと考えております。皆様方におかれましては、改めまして忌憚ないご意見を賜りたく、何卒お願い申し上げます。

ご承知の通り、医薬品企業には、患者様の安全・安心を確保しつつ、より良い医薬品を速やかに届けるという使命があります。

近年、日本においても、世界に先駆けたiPS細胞の活用や新規モダリティの研究といった新技術の追求、連続生産方式やロボット技術等による生産・物流効率化の追求、あるいはビッグデータ、IoTや人工知能をはじめとした最先端ICTの活用による研究から販売に至るまでの幅広い情報解析の追求など、様々な手法によるイノベーション創出機会が増大しております。そのイノベーションの結果として生み出された医薬品には、患者様の治療や公衆衛生向上による国民の健康な生活はもちろんのこと、その結果もたらされる労働生産性の向上等の経済的側面からの貢献など、様々な社会的な価値を持っています。

我々は、このイノベーションへの評価が、ややないがしろにされ財政的議論の的とされている現状を打破していかなければなりません。イノベーションが適切に評価される薬価制度とすることが重要ですが、そのためには、医薬品の価値を直接享受する患者様だけでなく、使用する医療界、承認し財源を拠出する政府、更には国民全体が理解を示している環境を整備することこそが、我々に課された、最大の課題ではないかと考えています。

そしてこれらを達成することが、日本の医薬品業界全体の底上げにつながり、ひいては国際展開していく際に、他国から医薬品の価値を適正に評価いただくことや、日本の医薬品業界を正確に理解いただくこと、そして何よりその信頼を深めることに繋がるものと信じています。

これから 2 年間、日薬連会長としての職務を、加盟各団体の皆様方の声を聴きながら遂行してまいりたいと存じます。加盟各団体の皆様方におかれましては、引き続き絶大なるご支援を賜りますことを、改めてお願い申し上げて、就任の挨拶とさせていただきます。

以上